

第2部

各地からの報告：東京都内各地の生息繁殖状況

1. 西多摩地区①：御手洗 望氏（青梅自然誌研究グループ）

青梅自然誌研究グループは2002年に設立後、オオタカの生息・繁殖状況調査を実施している。ここでは青梅市周辺の西多摩地域におけるオオタカについて紹介する。

まずはじめに、東京都内では多くの市民団体によって1980年代からオオタカの調査が行われてきたことをここで紹介しておきたい。1980年代に狭山丘陵で密猟監視グループが活動をはじめ、1980年代後半から1990年代は東京都多摩地域で開発が問題となり、各地で調査が増え始めた。西多摩地域ではオオタカ保護連絡会が、南多摩地域でも圏央道の関係で小池清氏ら八王子・城山のオオタカを守る会や南多摩オオタカ里山連絡会によって調査が行われた。北多摩地域では前述の密猟監視グループの方々により調査が行われてきた。こうして各地で調査が行われてきた一方、市民団体間の情報共有ができず、東京都内全域の状況は長らくあきらかにされてこなかった。市民団体によってカバーされていない未調査地域があるのも問題点のひとつであった。しかし、地元市民による調査は保護活動が発端となっているので、開発があったとき迅速に問題指摘できるという長所があった。情報共有が難しい反面、営巣地に関する情報管理がしやすい面もあった。

2007年以降、東京都環境局によって全域調査が開始され都内全体のオオタカの生息状況が明らかにされた。環境局による調査は開発規制につながるものと考えている。また行政関係者ならびに受託者には守秘義務があるので、情報管理についても確保できていると思われる。なお、今回発表する西多摩地域のデータは環境局の調査にも情報提供している。

つぎに西多摩地域のオオタカの生息・繁殖状況について紹介する。ここでは西多摩地域のうち、青梅市とその周辺を対象とする(青梅市およびあきる野市・日の出町・瑞穂町の一部)。この地域には山地・丘陵地・台地があり、三つの地形での営巣状況を把握している。調査範囲でこれまで確認されたオオタカの営巣地は12箇所である。営巣木を近距離で変える場合は1箇所としている。調査は2002年から13年目にあたり、毎年3～6箇所での営巣を確認している。

営巣地数については変動が大きいのではっきりとした増減傾向は見られない。昔の状況を知っている方に聞いたところでは1980年代から1990年代前半は営巣地が3～5箇所、この20～30年間の傾向は変わらないと考えている。巣立ちヒナ数は4羽までで、平均は2.5あまりである。営巣木の樹種で特徴的なのはモミの利用率が高いことである。青梅市で

はモミが多く、他の地域のスギと同じくらいの割合でモミが使われている。スギ 1/3、モミ 1/3 といった状況である。昔の話を聞いているとアカマツが多かったようだが、松枯れの影響で今ではわずかししか利用されていない。

オオタカの営巣地の標高分布を見ると 150~300 メートルである。一方、多摩クマタカ生態調査チームによって明らかにされているクマタカの営巣地の標高を見ると 400~1500 メートルである。両種間の直接的な関係は不明だが、標高だけ見るとすみ分けているようにみえる。奥多摩のクマタカ調査でもオオタカは観察例が少なく、繁殖行動が見られた場所も少ない。山の方にはオオタカは低山地や丘陵地に比較して少ないのではないかと考えている。

オオタカの繁殖を脅かすのは第一に開発である。青梅市では永山北部丘陵開発という 90ha の開発でオオタカが問題となっていたが、計画は頓挫し市が買い取ることとなった。同程度の規模として南多摩地域の稲城市の丘陵でも住宅開発でオオタカが問題となったが、事業は進んでしまっている。かつてに比べて大規模開発はなくなったが、東京オリンピックなどもあり、各地で開発の話を再び聞くようになった。例えば南多摩地域の八王子市では流通拠点事業としてかなり大規模な開発事業（40ha 規模）が計画されている。こうした大規模な開発ではなく、小規模な開発についても問題である。こうした開発問題については、環境局によるオオタカ生息状況調査を活用した開発指導を期待したい。一方で行政任せでなく、市民団体も引き続きオオタカを見続けて問題指摘することが必要と思われる。

この他、オオタカの生息に影響があるものとして森林施業がある。東京都では花粉症対策として植林地での皆伐があちこちで行われているが、青梅市では花粉症対策によって営巣木を含む営巣林全体が伐採されたことがあった。森林施業は必ずしも猛禽類の生息への悪影響を及ぼすものではなく、採食環境として利用される場合もある。森林施業はアセスメントの対象外ではあるが、あらかじめオオタカの生息状況を把握しながら進めてほしい。このほか、求愛造巣期に林床の落ち葉かきが行われたため営巣放棄につながった例もあった。

今後も環境局には都内全域のモニタリングをぜひ継続してほしいと考えている。予算の関係で十分にできないという話があったが、市民団体もデータを東京都に提供し、より精度を高められればよいと思う。東京都にはそのための窓口をぜひ作ってほしいと思う。今後、市民と行政が協働でオオタカの保護に取り組めたらよいと考える。